

科目区分・分類	専展・講義	対象学科名・学年	生産環境2年	科目コード	89711708
科目名	都市デザイン Urban Design				
担当教員	西川 嘉雄				
単位数(時間数)	選択 後期 2単位 (30時間)【学修単位】	学習・教育目標との対応	(D-1)(D-2)		
授業の目的と概要	都市デザインのあり方を、都市空間における音環境の快適性と情報伝達を題材とし習得する。まず、都市計画法の用途地域や都市計画事業について理解する。さらに、都市空間における音環境の現状を理解し、騒音制御・信号音や音声による情報伝達・サウンドスケープ手法などを用いて景観に調和した音環境の創造について考える。				
先修科目					
後修科目					
備考	都市計画，地域計画，建築計画，建築環境に関する基礎的事項を習得していることが前提であり，これらの知識が不足する場合は各自が事前に補っておくこと。				
	授業項目	時間	内容		
1	都市計画法	2	都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できる。		
2	都市空間の音環境の概要 / 公共空間の音環境	2	都市空間の音環境の基礎事項として，公共空間の分類が説明できる。		
3	騒音による生理的・心理的影響	2	音環境が都市の印象に与える影響，生理・心理的影響について説明できる。		
4	会話・作業・聴取妨害	2	音の評価かかわる基本事項について説明できる。		
5	都市空間の音環境に関する法規制	2	国際規格や国内法規（環境基準や騒音規制など）の概要を説明できる。		
6	都市空間における音環境の実態/調査方法・評価方法	2	音環境の調査方法，目的，結果の考察方法についての的確に説明できる。		
7	交通機関（駅，空港・乗り物など）	2	音環境の調査結果により，その場に応じた望ましい音環境について説明できる。		
8	商店街・地下街・商業施設	2	音環境の調査結果により，その場に応じた望ましい音環境について説明できる。		
9	公共施設・公園・緑地	2	音環境の調査結果により，その場に応じた望ましい音環境について説明できる。		
10	都市空間の信号音のデザイン/危険・情報を知らせる音	2	警告音，サイン音，報知音や音声による避難情報などの特徴を説明できる。		
11	高齢社会に配慮した音	2	高齢者の聴覚特性を考慮した信号音について説明できる。		
12	景観と音の相互作用/視覚と聴覚の相互作用の基礎知識	2	視覚と聴覚が景観に及ぼす影響を説明できる。		
13	音が景観に及ぼす影響	2	音が景観に及ぼす影響について説明できる。		
14	サウンドスケープデザイン	2	サウンドスケープの概念を説明できる。		
学習・教育目標を達成するために身に付けるべき内容	都市デザインとして都市空間に望まれる音環境を説明できること。特に，その都市空間にふさわしい音環境を「景観への調和・騒音制御・信号音や音声情報の伝達など」の視点で説明ができる。 以上の内容を満足することで学習・教育目標の(D-1)及び(D-2)の達成とする。				
成績評価	学年末試験（70%）および教科書を基に適宜出題するレポート（30%）の合計100点満点で評価し，合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。				
教材	教科書：桑野園子編「音環境デザイン」コロナ社 参考書：日本騒音制御工学会編「地域の音環境計画」技報堂出版 建築学会音シンポジウム資料				
オフィスアワー	毎週水曜日16:00～17:00，環境都市工学科，西川教員室。この時間にとらわれずに必要に応じて来室して下さい。				